



# 県中いわて

令和5年9月1日 / 第260号

- 発行 / 岩手県中学校長会 ●代表 / 中屋 豊 (盛岡市立厨川中学校) ●事務局 / 〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9 (盛岡市勤労福祉会館2F) / 電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
- 印刷 / 杜陵高速印刷 / 電話019(651)2110

## 東北地区中学校長会研究協議会福島大会が開催

### 研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会が6月30日(金)、福島県会津若松ワシントンホテルを会場に開催された。昨年度同様に参集型とオンライン参加型を併用したハイブリット形式での開催であった。

東北各県より参集者約100名、オンライン参加者約800名の会員が東北地区中学校の一層の充実・発展に向け、分科会での研究報告・グループ協議における情報交換を通して研鑽を深めた。

開会式において東北地区中学校長会の福地裕之会長は、『『新たな教師の学びの姿』の実現に向けて、『令和の日本型学校教育』を担うため、学校教育の課題を踏まえ、子供たちの『社会を生き抜く力』と『よりよい社会を形成する力』を育むとともに、Society5.0時代の到来を見据えた人材育成など学校の教育改革の推進、学校における働き方改革の推進、校長のリーダーシップのもと全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びや協働的な学びの実現など、予測不能な社会の変化に対応できるよう、まさに私たちの力量が問われている。今こそ『東北はひとつ』の精神で、東北人持ち前の粘り強い実直な気質と、東日本大震災及び原子力発電所事故からの復興・再生や近年多発する災害など様々な困難をも克服してきた自負を胸に、改めて絆を深めていきたい』と挨拶した。

開会式後は前日に行われた理事会報告がなされ、『令和5年度東北地区中学校長会宣言・決議』が読み上げられた。

続いて、PwCコンサルティング合同会社マネージャーの高橋洋平氏による記念講演が、「不透明かつ分断の時代における校長のリーダーシップを考える～東日本大震災・コロナ禍の先へと向かう東北教育界リーダーへのエール～」と題して行われた。

「探求するリーダーであれ」という参加者に対するメッセージで講演会がスタートした。震災後、福島県での勤務など、これまで高橋氏が経験したことをもとにしながら、学校のリーダーは常に「探求」する意識を持つことの大切さを説いた。最後に、リーダーの危機を回避するための「教育行政の三則」は、「筋を通す」「論より証拠」「簡潔明瞭」であり、これが先生方を守ることに繋がると話し、講演を締め括った。



講師の高橋洋平氏

分科会は、第1分科会「健康・安全教育」、第2分科会「道徳教育」、第3分科会「主体的・対話的で深い学びの実現」をテーマにそれぞれの研究報告及び協議が行われた。本県からは一戸町立一戸中学校の佐々木由貴子校長が、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、一戸小学校と連携を図りながら当該校が取り組んだ研究実践した成果を発表し、軽米町立軽米中学校の齋藤秀一校長が協議の司会を務めた。ICTを活用しながら生徒の資質・能力の育成を図るため、改善に取り組んだことにより、教職員ひとり一人が力を蓄えてきているという成果が発表された。

閉会式では、次期開催地の本県の中屋会長から、次期大会は「第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会」並びに「第74回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会」として令和6年10月17日、18日の2日間、岩手県盛岡市において開催する旨の挨拶があり、来年10月の再会を誓い、全日程を終了した。



閉会式で挨拶する中屋会長



東北地区中学校長会 福地会長

## 先輩メッセージ

「出会ったすべての  
方々に感謝とお礼を」

蛸島 茂雄 様

(前釜石市立大平学校長)



36年に及ぶ教員生活を終えることができたのは周囲のおかげだとつくづく感じている。生徒、保護者、同僚、上司、地域の方々から力をいただいた。苦しい時期、悩んだ時期は数え切れない。辞めようと思ったことも一度ではない。しかし、そのたびに周囲の誰かの言葉や、取り組む姿、働く姿を見て前を向くことができた。だからこそ私は、教師と生徒、保護者、上司と部下という関係であっても「人と人の関係」であることを常に心に置いて努めてきた。

やるべきことから逃げる生徒、粗暴で礼儀が備わっていない生徒、心が弱く登校すらままならない生徒等、世間から言えば手のかかる子どもたち。しかし、その生徒たちは一生そのままではあるとは思えなかつた。そんな生徒達はほとんどが立派な大人になっていた。たかだか中学生時代で判断できることではないと思う。すべての生徒の可能性は無限大である。

また、「クレーマー」と呼ばれる保護者がいる。私に教えてくれた上司は「とことん寄り添う」ということを教えてくれた。とことん寄り添うとは何か、自問自答した。経済的に支援するとか、一緒に生活するとか、そんなことであるはずはない。同じ目線に立つこと。その生徒が、保護者がどんな思いでいるのか、どんな生活をしているのか。そこまで目線を同じにして、共に子どものために何が出来るかを考え、それぞれの立場で行動を起こすことしかないと考えた。

同僚についても、「教師である前に一人の人間として」関わることを心がけた。一つは「適材適所」。どんな人間にも得意不得意はある。教師もしかり。オールマイティを求められがちだが、それぞれの良さを活かし、組織のレベルアップを図ったほうが断然効率的である。

また管理職となったときに、どんな状況であっても家庭や家族を優先してもらおうよう配慮した。自分自身や家族の病気や、子どもの入学式や卒業式。人には立ち会うべき節目がある。それを当たり前でできる働き方や環境を整えることが大切だと思う。そのためにも普段から何でも話し合える、風通しの良い組織や人間関係づくりを心がけた。

しかし、私は優れた人間ではない。いろいろと力足りないこともたくさんあったし、迷惑をかけたことも多々あった。今まで出会ったすべての方々に感謝とお礼の気持ちを忘れずに行きたい。

## 先輩メッセージ

## 「杞憂」

天間 保幸 様

(前久慈市立侍浜中学校長)



今年の夏は、例年になく厳しい暑さが続き、岩手の避暑地であったはずの沿岸北部も連日真夏日、時には猛暑日を記録するほどの異常気象となっている。老婆心ながら、この猛暑の中、部活動や陸上練習に励む子どもたちの健康・安全を祈る日々である。

これまで多くの方々にご支援をいただきながら、3月に37年間の教員生活を終え、無事定年退職を迎えることができた。心より感謝申し上げます。

退職後は、自宅でのんびり悠々自適な生活を考えていたが、管内には美術科教員の配置のない学校が多く、少しでもお役に立てるのならと「きめ細かな指導対応非常勤講師」を引き受けることとした。

ご存知の通り、美術科は、学習指導要領に育てるべき資質や能力、態度等は明確に示されているものの、その育成のための題材や教材、指導計画等は、教員にほぼ委ねられている。定まった正解のない課題に対し、子どもたちがそれぞれの感性や想像力を働かせ、造形的な視点をもって、作品作りを通して、自らの正解を求めていく学習である。これからの予測不能な社会を生きる子どもたちが、未知の課題に対しどう向き合っていくか、その素地となる資質や能力、態度を育てる一端を担う教科でも思っている。

そんな思いから、子どもたちが興味をもって課題に向き合い、意欲的に制作に取り組めるような授業を創ろうと意気込んでいたが、なにせ16年ぶりの授業である。忘れていたことばかりのうえ、子どもたちの様子も変われば、ICT機器の活用等も加わり、授業をどう創っていくか悩むことばかりで、悪戦苦闘の日々を送っている。

今年度から公務員の定年延長が段階的に行われ、校長は60歳で役職定年となる。その後は、教諭と同じように授業や部活動等を担当することがあるのだろうと思うと、ただただ頭が下がる思いである。賢明で優秀な校長先生方ばかりなので、杞憂とは思いますが、今後役職定年を迎える校長先生方に心よりエールを送りたい。

## 新任校長の抱負

## 「好きです 葛巻！」

岩手地区 山根 孝広 (葛巻中)



本校に赴任するにあたり最初に考えたことは、保護者・地域と協力して生徒を育てたい、そのためにはまず地域の良さを知ることから始めようということだった。

葛巻と言えばワイン。歓迎会等で様々な種類を頂いたが、どれもとても美味しい。特に気に入ったワインがいくつかあったが、いつも翌朝にはすっかり忘れていたので、残念ながらここでは紹介できない。ひとまず全部お勧めとしておこう。また飲み会の際、回転テーブルの上にワインと並んで大瓶の牛乳とこれまた大瓶の飲むヨーグルトが置いてあるのも衝撃的だった。これぞ葛巻スタイル！この他、名物の水車で挽いた地元産そば、くずまき鍋（冷やしもあり）を頂き、牧場で満点の星空を眺め、次なるターゲットをワイン入り焼き肉のたれとした。学校近くの産直に仕事帰り二度寄ったが閉店。絶対買ってやるぞと決意し、ある日勤務終了と同時に学校を出発。店に着いたのが4時55分。よしと思ったのもつかの間、よく見ると店内の電気は消えていて扉には「閉店」の札。がっかりしながらも店内に人影が見えたので、「ここは何時までやっているんですか？」と聞いてみた。返ってきたのはなんと「6時だよ」??? 「えーっ。今5時ちょっと前ですよ」「今日はお客さん来ないからもう閉めちゃった。でも入っていいよ」このゆったり感、なんとも言えずいい感じである。そして閉店しても売ってくれる??優しい人柄、これまた素晴らしい。無事に目的のたれを手に入れ、「好きです葛巻！」そう思いながら帰路についた。その後、我が家のメインたれの座が奪われたのは言うまでも無い。

保護者と接しても、総じて人柄がよい。温かい地域・保護者に育てられた生徒は、当然ながら素直で優しい。この生徒達を教職員一丸となり精一杯育てていきたいと思う。

## 新任校長の抱負

## 「和賀の山々のように」

和賀地区 藤原 誠彦 (和賀西中)



本校は、北上市内で最も西に位置し、西和賀町とも学区を接しております。奥羽の山裾が迫り、冬は雪も深くなると聞いていますが、西に見る和賀の山々は常に青々と雄大です。全校で取組む伝統の「西中ソーラン」は、昨年度の岩手県中学校総合文化祭で披露させていただきました。また、「生け花教室」も地域の皆様から毎年ご指導いただいております。地域の皆様にも大切に育ていただいている学校です。

本校は、全校77名と北上市内中学校で最も少ない生徒数ですが、和賀の山々のように大きく育ててほしいと願い、本年度の学校経営方針は、教育目標「心身を錬磨し、正しい判断力と創造性をもって実践する生徒の育成」から「鍛える」「挑戦する」とし、新任校長としても学校経営に正に「挑戦」しているところです。

部活動では運動部が3種目であることから、地域移行についても4月から校外活動部を設置することで進めており、その中から全国大会へ出場する選手も生まれました。このような可能性に挑戦していく生徒を「真の西中生」として学校全体で応援しております。子ども達の可能性を広げることを大切に、挑戦していくことを価値付け支援する学校、教師集団でありたいと考えております。

「ウェルビーイング」について学ぶ機会が増えましたが、「郷土の良さに気づき、愛する気持ちを持つこと」「自分の良さに気づき、可能性を広げること」も本校生徒の豊かな育ちとしてのウェルビーイングであると考え、この「地域連携」と「挑戦」を学校経営の2本柱として推進しているところです。

「方針を示すことで学校が動く」という校長先生もおられるようですが、そのような域にはほど遠く、副校長をはじめ主任の先生方、保護者、地域の方々と手を取り合い、また和賀地区校長会の皆様のご指導で、何とか1学期を過ごしました。和賀の山々に例えると、まだ1合目あたりでしょうか。年度内には何とか3合目くらいには達したいものと思っております。



## 新任校長の抱負

## 「校長室の椅子」

一関地区 村上 正和 (萩荘中)



校長としての勤務一日目、校長室の椅子に座ってみると、目の前の壁に掲示してある「誠実 探究 健強」の3つの言葉が目にとまりました。タイトルがついていなかったのが学校経営計画で確認してみると、目指す生徒像を表す言葉であること、学びフェストと関連している言葉であることがわかりました。学校教育目標は校内のどこにも掲示がなく、あるのは校長室と同じ「誠実 探究 健強」で、体育館に至っては大きな額縁で設えられていました。

過去の学校要覧で確認してみると、「誠実 探究 健強」は平成6年度から学校教育目標の具体目標(生徒像)として受け継がれ、いつしか「校訓」と呼ばれるようになって現在に至っていること、学校教育目標は何度か変更され、令和2年度から現在のものになっていることがわかりました。

校長室の古い資料にも目を通してみると、統合後54年目となる本校は、地域と一体となって鶏舞や野焼まつりが大切に継承されており、昭和55年には3年がかりで郷土史の研究を行った成果が500ページに及ぶ書籍「ふるさとの四季」として発刊されました。すごい学校、地域に赴任したことに気付かされました。今年度の県中文祭では伝統の鶏舞を披露することになっており、本校の文化を他校に紹介できるよい機会に立ち会えることをうれしく思います。

引継ぎで令和6年度に県道研・東北道研の会場校となっていると聞き、道徳について私自身が学ばなければと思って3月末に購入した書籍は、偶然にも研究主任も手にしていた1冊でした。この中には校内研に招聘した講師の先生の執筆記事が掲載されており、運命的な出会いを勝手に感じながら研究に取り組んでいるところです。

校長室の椅子に座っていると、20人の歴代校長先生方から「しっかり頼むぞ」と激励を受けているように感じます。微力ではありますが、地域の特色を生かした学校経営に励んでいきたいと思っています。

## 新任校長の抱負

## 「海と共に生きる学校」

気仙地区 佐々木伸一 (末崎中)



かつて気仙地区内の中学校で、一番海が近く、いつでも海が見える中学校がありました。その中学校は、被災し、閉校した内陸の中学校を間借りし、学校生活を送りました。海は見えなくなりましたが、常に子ども達は、何事にも一生懸命で、授業、行事、部活動、けんか七夕太鼓、合唱を前向きに頑張りました。今でも子ども達が歌った、「空～ぼくらの第二章～」「ぼくらは生きる このふるさとで」の歌詞が忘れられません。そして再び、一番海が近くに見える末崎中学校に異動してきました。再び「海と共に生きる学校」に、今までの感謝の思いを伝え、「恩返し」「恩送り」をしたいと考えています。

本校は大船渡市の南に位置し、眼下には太平洋を眺望することができ、学区内の碁石海岸は陸中海岸国立公園の絶景の一つに数えられ、例年多くの観光客が訪れます。全校生徒は現在68名ですが、平成14年から地域の漁家の協力を得て、わかめの養殖から販売までを行う「わかめ学習」を実施してきました。修学旅行時には東京でわかめ販売を行いました。東日本大震災では、わかめ学習で使用していた養殖施設やわかめを流出し、販売することはできなくなりました。しかし、全国からたくさんの支援をいただき、震災の翌年には、わかめ学習を再開させ、わかめの販売先を盛岡に変更し、現在も本校の伝統と文化そしてお宝の「わかめ学習」を継続させています。

「わかめ学習」が地域と学校を結びます。「海と共に生きる学校」の産土の子ども達が、ふるさと末崎で強く生き、何事にも一生懸命に取り組んでいます。「ふるさと末崎を大事に思い、人の役に立つことをしたい」との子ども達の熱い思いを誇りに思います。これからも地域と一体となって、伝統と文化、お宝を守り育てます。校歌の歌詞にある、「かがやき溢るる 美しの郷に むつみてうれし 産土の子ら」の学校経営を実践したいと思います。

## 私の学校経営

私たちの願いと  
円滑な接続

花巻地区 佐々木律夫（矢沢中）



矢沢中学校区では小中連携に力を入れています。この取組は「コネクトプロジェクト」と名付け、矢沢小・中が協働しながら、子どもたちの生き生きとした学校生活と自己実現を願い取組んでいるものです。この取組の舵取りを担っているのは、コネクトプロジェクト推進委員会です。両校の校長・副校長・教務主任・生徒指導主事が方向性を決定し、具体的な取組については担当者同士で話し合い進めています。例えば5月に中一情報交換会を行いました。小学校の先生が中学校1年生の授業参観をし、その後、入学後の様子について情報交換をするものです。中学校からすると、入学前に行った小中情報交換会時に得ていた情報と、新たな生活において人間関係等の変化した点や気になる点を比較しながら情報交換が行えるため、子どもたちを違った角度から見つめることができ

ます。6月には小中交流研修会を行いました。今年度は学校運営協議会の委員の方々にもご参加頂き、小中の職員が、どのような取組をしているかを直接見ていただきました。

7月には児童会と生徒会のメンバーが合同であいさつ運動を行いました。これまでは児童生徒の直接的な交流ができませんでしたが、今年度からは積極的に行っていく予定です。夏休みに入ってから、児童情報交換会を行いました。これは主に小学校の不応児児童についての情報交換となります。中学校が、小学校の不応児児童の様子をできる限り早く情報を知ること、その対応策を練ることができますし、保護者が希望すれば中学校の校長や関係職員とも不安な点について面談をすることができます。中学校の職員と面談することで、入学後のハードルを下げるすることができます。小中の教員の乗り入れ授業も行っています。昨年度は小学校の先生が中学校で、中学校の先生が小学校で授業を行いました。小学校と中学校の教員が互いに顔を合わせて取組むことには大きな意味がありますし、児童も中学校に入学したときに見た顔の先生がいるだけで安心感を得ることができます。小中の円滑な接続は子どもたちのウェルビーイングを高めることに繋がると信じています。

## 私の学校経営

「地域と共に生徒を育てる  
学校経営」を目指して

宮古地区 昆野 賢寿（崎山中）



素直で明るい生徒、温かい保護者、学校を愛してくれる地域の方々、そして、何よりかけがえない素晴らしい職員に恵まれた自宅から徒歩6分のところにある崎山中学校で勤務しています。この学校は地域と共に歩んできた学校であり、地域の方々が、がっちりスクラムを組み、学校のために、生徒のために、をモットーに取り組んでいる学校でもあります。

本校は、保育所、小学校が隣接し、学区には特別支援学校もあります。学校教育を進める上で、このような条件が整い、地域との関係も密接であらゆることに地域の方々が関わってくれるところでもあります。この条件を生かすためにも、保・小・中学校の連携、そして、特別支援学校との連携も

進め、さらに、地域と共に生徒を育てる学校づくりを進めていきたいと考えています。

今年度は、生徒の心を耕すことに重点を置き教育相談の充実を推進しています。生徒との関わり方で悩む先生方もいることから、関わり方を学びながら毎週の教育相談アンケートを大切にし、全職員で相談活動に取り組んでいます。「いつも見守っている」ということを伝え続けること、生徒にしっかり寄り添うことを第一に考え、全職員で共通理解のもとに進めています。これは、人を育てること、人づくりにも関わってくることでありと考えています。

今年度、学校経営を進める上で大切にしているキーワードは「ワクワク感」「生徒の願いのために」「言葉の力」「感謝」です。生徒と教職員間の共通キーワードは「思いやり」です。この、5つのキーワードを大切に、「チーム崎中」を合言葉に全職員保護者、地域の方々と共に生徒を育てる学校経営を進めています。

今日も生徒のために、生徒の笑顔を見るために、6分間の自然見学をし、地域の方々と挨拶を交わしながら学校に向かいます。

# 各地区校長会活動 NOW

## 紫波地区校長会



「相互の連携を図り、  
『新たな時代』の経営へ」

藤澤 崇 (矢巾北中)

### 1 はじめに

紫波地区校長会中学校部会は、紫波町3校、矢巾町2校の5校で構成されています。各学校間の距離も近く、気軽に集まったり、打ち合わせたりすることが可能な地区となっていました。

紫波地区では、紫波西学園(R3～)、紫波東学園(R4～)の小中一貫校ができました。もちろん、他の学校でも、ICTやCSなども含めて、『新たな時代』の学校経営が必要になっています。5名中3名が転入し、新たな空気を感じながら、また、コロナ禍も明け、積極的な交流・懇親も図りながら、それぞれの成果・課題を情報共有しあい、よりよい学校経営が展開できるように活動しています。

### 2 本年度の活動方針

- (1) 国、岩手県及び紫波町・矢巾町の教育課題

を認識し、学習指導要領の趣旨の実現に向け、学校経営理念を明確にし、学校教育の充実と発展に努める。

- (2) 会員相互の研修や情報交換・連携・協力を推進しながら、校長としての識見・力量を高める。
- (3) 教育諸条件の整備・充実・改善に資するため、関係教育機関・諸団体等との連携に努める。

### 3 本年の主な活動内容

- (1) 総会・研修会・研究大会の実施
- (2) 学校経営(人材育成)に関わる研究推進  
「年代に応じた実践力を身につけ、『令和の日本型教育』を担うことができる教職員の育成～教職員一人ひとりを大事にした校長の働きかけを通して～」(1年目/2年次研究)
- (3) 部会研究会・情報交換会の実施

### 4 おわりに

コロナ禍も明け、「真の、そして新の学校を創る」時代が来ています。その先頭に立つ校長自身が、心を開放し、先生方と共に創造していく空気を創るため、本会での連携を強めていきたいと考えています。

## 遠野地区校長会



「横と縦のつながりを  
活かした校長会を目指して」

堀村 克利 (遠野中)

### 1 はじめに

遠野地区校長会は、遠野市3校の中学校で構成される小規模の校長会である。4月に1名の新入会員を迎え、様々な役割を兼務しつつ、相互に情報を共有し、小回りの利く組織の利点を活かしながら活動をしている。そして、小学校長会との連携を大事にしている。

### 2 本年度の活動方針

- (1) 会員相互の連携と交流を大切にし、校長会の活動を充実させる。
- (2) 小中連携における校長の役割として「10(とお)の視点」を軸とした取組を行う。
- (3) 学校経営上の諸課題に対し、会員同士協力し合い、連携を図りながら解決に努める。

### 3 本年度の活動内容

- (1) 学校経営の充実に資する研修の推進

- ③東北・全国校長研究大会等の伝講
- ④小・中部会での研修
- ⑤その他必要とされる研修

- (2) 教職員の資質向上と時代を担う人材育成に努める

- (3) 関係機関との協力を深め、社会教育を含めた地域の教育振興に努める

- (4) 遠野市の教育課題の解決に向けた取り組みの充実(中学校区CSの推進、学力向上、ICT活用の推進、学校不適應の解消等)

- (5) 会員相互の連携と交流の推進

年間計画に基づき、小中合同で活動を行うことが基本となっている。諸会議や研修会の後に、中学校で情報交換を行っている。また、特にも中学校学区における小中連携を大切にしている。

### 4 おわりに

アフターコロナと言われているが、まだ安心できない状況の昨今である。しかし、学校行事の在り方や地域との連携、GIGAスクール構想(教育DX)、働き方改革等、コロナ過の下で試行錯誤してきたことがこれから活かされるはずである。



# 各地区校長会活動 NOW

## 胆江地区校長会



### 「校長間の連携を大切に」

村上 俊明（水沢中）

#### 1 はじめに

胆江地区中学校長会は、奥州市7校、金ケ崎町1校の計8校で構成されています。4月に2名の新入会員を迎え、校長間の連携を大切にしながら、特色ある学校経営の充実に向けて、会員相互の親睦と融和を図りながら活動しています。

#### 2 本年度の活動方針

- (1) 学校経営研修の充実を図る。（主題研究、小中高連携の推進、教育課題に関する実践・研究）
- (2) 全日中・東北中・県中校長会の事業参加及び研究推進に努める。
- (3) 教職員の社会的地位の向上に係る研修機会を設ける。

(4) 教育関係機関及び団体と連携した教育諸条件の改善に努める。

#### 3 本年度の主な活動内容

- (1) 定期総会、経営研究会、研究発表会、地区校長会研究集録の作成及び発行
- (2) 事業への参加及び研究推進（研究主題3年目）よりよい社会の形成者の育成を目指した特別活動の推進～自己肯定感を育む指導を通して～（前年度の成果と課題に焦点をあてながら各校で実践交流のレポートを作成）
- (3) 教職員の資質向上、教職員の研修の充実、行財政諸課題に係る研修
- (4) 中高連携会議の開催（地元高校校長会との意見交換等）

#### 4 おわりに

新型コロナが5類に移行となり、4年ぶりの懇親会をはじめ、校長会として通常の活動ができるようになりました。さまざまな教育課題が山積していますが、会員相互の連携と情報共有を図りながら、学校経営の充実と学校課題への対応に向けて、会員一丸となって活動を推進していきたいと思えます。

## 二戸地区校長会



### 「二戸地区7校の強い絆で」

永本 一志（奥中山中）

#### 1 はじめに

二戸地区校長会中学校部会は、二戸市3校、一戸町2校、軽米町1校、九戸村1校の合計7校で構成されています。昨年度の定期人事異動により、全7校の校長が異動となった。地区は広域でありながら、少ない学校のため迅速に連携できる利点を活かし、会員相互の情報交換を密に行いながら、直面する教育課題や地域課題の克服に努め、学校経営を推進している。

#### 2 本年度の活動方針

- (1) 社会の変化に対応し、教育改革の動向を見極め、地域に根ざす創意や特色ある学校運営の充実を図る。
- (2) 地区の連携を強め、当面する教育課題に協働して取り組む。
- (3) 校長としての識見・力量を高めるための研

究・実践活動を積極的に行い、人材育成に繋げる。

#### 3 本年度の活動内容

- (1) 総会・研修会の実施
- (2) 地区の研究推進  
研究主題「社会の変化に主体的・協働的にかかわりよりよい未来を創る二戸の教育」を掲げ、ICT活用を核とした生徒の資質・能力の育成を図るための学びの改善について研究に取り組んでいる。
- (3) 県校長研究大会二戸大会開催へ向け  
令和6年度開催に向け、実行委員会、準備委員会を組織した。事務局、各部会の業務内容を確認し、各部の運営計画に基づいて準備を進めている。

#### 4 おわりに

新型コロナウイルスが第5類へ移行し、様々な制限が緩和されてきている。学校行事、地域行事、諸会議等、コロナ禍での開催方法から以前の開催方法へ戻りつつ行われるものも出てきている。「ねらい」の達成のための開催の在り方を検討し、働き方改革にも取り組み、リーダーシップを発揮して学校経営に臨みたい。



## 令和5年度沿岸被災地訪問（報告）

令和5年8月2日（水）・3日（木）に、岩手県中学校長会常任理事及び事務局の9名が、沿岸被災地域の中学校を訪問してきました。訪問先は下表のとおりです。

この訪問は、東日本大震災津波以降、全日中と県中役員が実施してきたことの一环です。この訪問において、現場の校長先生から直接お話を伺い、現在の状況を把握するとともに、県中学校長会組織としてどのような支援ができるかを考え、共に学校経営の充実を図ることを目的に行っています。

住田町立世田米中学校は被災地の中学校には該当しない学校ですが、今年度末に町内の有住中学校との統合が予定されているとのことから訪問しました。現在、検討委員会を開催して調整を図っているそうです。また、文部科学省研究開発指定を受け、町内の小学校2校、中学校2校、高等学校1校が研究を推進しているとのことでした。

気仙地区校長会との情報交換においては、人口減少や少子化により中学校が統合される地区があること、心と体の健康観察の結果から課題を抱える生徒

の割合が高く、その相談のための対応は復興加配で対応していること、部活動のあり方や中総体運営が困難であることについてなどが話題として出されました。

釜石地区校長会との情報交換においては、気仙地区同様に生徒数が減少していること、それに伴い部活動の入部数も減ってきていること、中学生が自分たちの学校をどのように発展させていくかを主体的に考える「絆会議」は形を変えて実施されていること、保護者の中には震災後何年たっても生活は変わらなくつらい思いをしている状況がありそれを子どもが感じ取り不登校等に影響していることなどが話題となりました。

県中学校長会としては、各地区の課題を全日中校長会、県教育委員会に伝え、改善につなげていくことができると考えています。これからも県内すべての中学校長が一枚岩となり、力を合わせて本県教育の充実が図られるためにも、今後も沿岸被災地訪問を継続してまいりたいと考えております。

日程	訪問先等	備考
8月2日 （水）	○住田町立世田米中学校長との懇談	世田米中校長から学校経営の工夫等について説明と懇談
	○大船渡市立第一中学校にて気仙地区中学校長会との情報交換	地区校長会長挨拶、各校校長から現状と課題等の説明等
8月3日 （木）	○釜石市立釜石中学校にて釜石地区中学校長会との情報交換	地区校長会長挨拶、各校校長から現状と課題等の説明等



世田米中学校での懇談



気仙地区中学校長会との情報交換



釜石地区中学校長会との情報交換



世田米中学校玄関にて



大船渡第一中学校正門にて



釜石中学校玄関にて